

誰もが生きやすい包摂社会をつくる



目 次

03	はじめに — 共同代表からのごあいさつ
04	第 17 期 活動概要
06	つながって生きる — ホームレスの人、生活困窮者の自活・自立応援プログラム
06	1. 当事者への情報提供 — 『路上脱出・生活 SOS ガイド』の配布、リニューアル
07	2. 相談機会の提供 — 生活・住宅・医療などについて、のべ 1,002 件の相談に対応
08	3. 「つながり」をつくる活動 — 定例サロン、パーティ
08	4. 仕事・就業応援プログラム — 雑誌販売の仕事を応援
09	5. スポーツ・文化活動プログラム — 人とのつながり、いきがいを応援
10	生きやすい社会をととのえる — 貧困問題解決のネットワークづくりと政策提案・実験的事業
10	1. 暮らしの基盤をつくる — 住宅問題の実験的事業
12	2. 新しい仕事づくりの実験的事業 — 「夜のパン屋さん」事業を継承
13	市民が社会をつくる — ボランティア活動と市民参加
13	1. ボランティア参加
13	2. 広報・メディア掲載
14	3. 寄付参加プログラム — 市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付、物品寄付
15	4. ありがとうございました — 市民・組織・団体・企業のご協力とご参加
16	決算報告
18	社会を変えるのはあなたの寄付です — 会員・寄付の制度について
19	誰もが生きやすい包摂社会をつくる — ビッグイシュー基金とは

おかげさまで、ビッグイシュー基金は設立 17 周年を迎えることができました。皆様の日頃からのご支援に心から感謝申し上げます。

「ホームレス」は「状態」を示す言葉であり、「ホームレス」という名前の人がいるわけではない。「ホームレス」という言葉で十把一絡にするのではなく、さまざまな要因により「ホームレス状態」に陥った一人ひとりの人間がいるということを知ってほしい。私は長年、こうした言葉を伝えてきましたが、近年、痛感しているのは「ホームレス状態」に陥る人が実に多様化しているという現実です。

基金に寄せられる相談も、かつては中高年男性が大半でしたが、コロナ禍以降は若者や女性、外国人の相談が珍しくなくなりました。特に若年層ではホームレス化のリスクを現実の不安として語る人が増えているといわれています。

生活困窮の多様化という難問にどう立ち向かうのか。まだ暗中模索の段階ですが、現時点でのレポートとして本報告書をご一読いただけると幸いです。



認定NPO法人
ビッグイシュー基金
共同代表 稲葉 剛

いつもビッグイシュー基金を応援してくださってありがとうございます。17 年続いた基金は、人間で言えばちょうど思春期というところでしょうか。いろいろ迷いながら考えながら、頑張っているところです。

私事ですが、こここのところ私は持病を悪化させて入退院を繰り返しています。パンデミックのせいもあって家にこもっての闘病生活、気がついたらいつの間にか病気の高齢者になっていました。

日常生活で困難を抱え、移動手段が難しくなりました。経済的な困窮も同じですよね。社会的弱者という言葉が思い浮かびました。いろいろな人のサポートが必要になって、＜当事者＞の意味が改めてわかった気がしました。そしてまたこの状況の中で、できることも見えてきました。

友人からもらった言葉があります。

「強くて弱くても」

そう、強い弱いなんて関係ないんだよ、一緒にやっ払いこうよ、と励ましてくれたのでした。

これからもどうぞ、ビッグイシュー基金を応援してくださいね。



認定NPO法人
ビッグイシュー基金
共同代表 枝元 なほみ

いつも温かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。ホームレス状態は、社会のもっとも弱い部分であるため、そのぶん、社会の変化がより敏感に反映されます。未来がたいへん見えにくくなっている今、日々直面する課題の細部に、社会の変化の兆候が表れていないか、感度を良くしていかなければなりません。

第 17 期は、枝元共同代表という、アイデアと意欲に満ちあふれる仲間がリードする「夜のパン屋さん」の事業を有限会社ビッグイシュー日本より継承しました。外部団体との連携などを通して、さらなる新しい事業や、仕事づくりの展開も広がる兆しがあります。うまくいくか、ということ以前に、このような試みに挑むことで、さまざまなノウハウが蓄積され、人材と人脈が育っていくことこそが大切だと思います。

そのような中から、新しい見方が生まれれば、できれば報告書の形にまとめ、小なりといえども、手づくりのシンクタンクの機能を維持していきたいと思っています。



認定NPO法人
ビッグイシュー基金
共同代表 米本 昌平

第17期活動概要

第17期は、これまでの連携や事業展開による活動現場の広がりを通じて、基金独自の活動を社会や当事者に開く一年になりました。日々の相談対応や当事者のクラブ活動などを、多くのボランティアや会員・寄付参加者に支えられ、進めることができました。新規事業「夜のパン屋さん」の売り場にもたくさんの方にお立ち寄りいただきました。ありがとうございました。

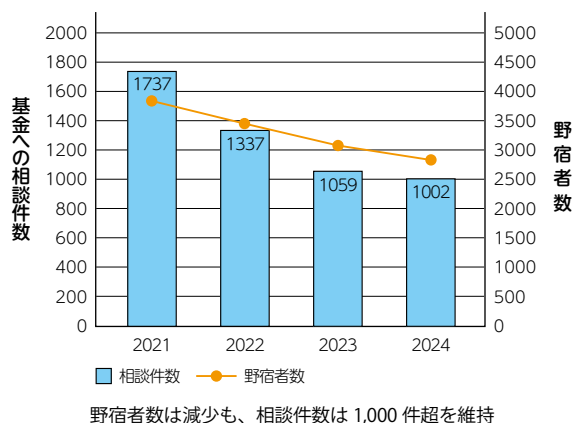
第17期トピックス

■ 野宿者数は過去最少も、相談内容は複雑化しつつ拡大傾向

2024年の全国の野宿者数は過去最少の2,820人でした（厚生労働省調査）。2003年の同調査と比較すると20年間で約9割減少しています。

一方で、第17期大阪・東京の基金事務所には、生活・住宅・医療・福祉など、のべ1,002件の相談がありました。4年連続で1,000件を超えている状況です。

相談に訪れる人は、住まいのない人、住まいはあるが困窮している人、複数人世帯、在留資格が不安定な外国籍の人、DV被害を受けている人などさまざまで、貧困問題は複雑化しながら、拡大しています。



国土交通省と東京都へ要望書を提出

■ 仮放免中の人々の居住実態調査、行政への申し入れを実施

基金では、コロナ禍以降、民間支援団体や個人支援者と連携し、団体の枠組を越えて実践ネットワークをつくり活動してきました。

第17期もこのつながりや経験を基盤に、出入国在留管理庁（入管）の収容施設から仮放免中の人々の居住実態調査、行政への申し入れなどを行いました。

■ 「夜のパン屋さん」事業を継承し、新たな仕事づくりを実践

フードロス削減と、多様な人が参加できる仕事の場づくりを目指す「夜のパン屋さん」事業を2024年1月に有限会社ビッグイシュー日本から継承し、念願だった新たな仕事づくりの実践を始めることができました。都内3店舗での営業のほか、カフェイベント「夜パンカフェ」では連携団体に登壇いただくトークセッションが好評でした。



活動の 3 本柱

基金は、誰もが生きやすい包摂社会を目指し、3 本柱の応援事業を行っています。

詳細は
06p.~

1. つながって生きる ― ホームレスの人、生活困窮者の自活・自立応援プログラム

当事者への情報提供と交流…『路上脱出・生活 SOS ガイド』の制作 / 配布を通し、当事者が支援につながるための情報提供を行っています。また、定例サロンやパーティなど当事者同士やボランティアが交流する機会をつくっています。

生活自立応援… 他団体や専門家と連携して、住宅・就業・生活・法律・福祉などの困りごとを相談できる機会をつくるほか、病院や行政機関への同行支援を行っています。

仕事・就業応援… 寄付品の衣料や熱中症対策グッズの提供、プロボノの協力を得たヘアカット、コーチングの場などを通して、路上で働く人々を応援しています。

スポーツ・文化活動応援… ホームレス状態の人が仲間とつながれる場として、スポーツ・文化活動を応援しています。

詳細は
10p.~

2. 生きやすい社会をととのえる ― 貧困問題解決のネットワークづくりと政策提案・実験的事業

一時居所の実験的運用と政策提言… 空き家・空き室を活用した一時居所の運営や家賃補助などの実験的事業に取り組むほか、住宅問題についての各種調査や政策提言を行っています。

社会的不利・困難を抱える若者の応援… 若者のホームレス化予防のため、社会的不利・困難があっても働きやすい仕事の実験的事業として「夜のパン屋さん」を開いています。

詳細は
13p.~

3. 市民が社会をつくる ― ボランティア活動と市民参加

ボランティア活動の推進… 毎月 1 回ボランティア希望者に説明会を開催し、日本のホームレス問題の現状や、基金の活動について紹介しています。

市民参加の促進… 雑誌『ビッグイシュー日本版』が届く特典付きの応援会員制度のほか、税制優遇の対象となる寄付メニュー、企業・団体向けの「社会再生サポーター」など多彩なメニューを通じて市民参加を促進しています。



路上脱出・生活 SOS ガイド



一時居所「ステップハウス」



ボランティアも参加する夜回り活動

つながって生きる

— ホームレスの人、生活困窮者の自活・自立応援プログラム

1. 当事者への情報提供

■ 『路上脱出・生活SOSガイド』（冊子版）の配布

<大阪編>

累計配布数 **4万 5,260** 部

<東京 23 区編>

累計配布数 **10万 7,323** 部



『路上脱出・生活SOSガイド（以下、ガイド）』は、ホームレス状態の人が今日を生きのびて自立への道を歩めるようになるために必要な情報を冊子にまとめたものです。ガイドの無料配布を通じて、必要な支援につながれるよう情報提供を行っています。大阪編、東京 23 区編は冊子版と Web 版があり、基金 HP 上から無料で閲覧が可能です。

ガイドは、大阪、東京にはじまり、札幌、名古屋、京都、福岡、熊本の各地でも作られています。大阪・東京以外は、各地で連携する支援ネットワーク「ビッグイシュー・サポーターズ」などが独自に編集・発行し、基金は要請に応じて印刷費などのサポートや広報協力をしています。

第 17 期は、夜回りなどでの配布に加え、協働団体や役所、教会や寺院、図書館、市民などから送付依頼を受け、大阪編 346 部、東京 23 区編 7,671 部の冊子を配布しました。また、Web 版は月間平均で 1.9 万回*閲覧されました。

※参照：Google Analytics ガイドページ全体の合計ページビュー（2023/9/1～2024/8/31）

■ 『路上脱出・生活SOSガイド』東京 23 区編（Web 版）をリニューアル

2024 年 8 月、Web 版ガイドをより見やすくなるようにリニューアルしました。スマートフォンからの閲覧に最適化したほか、表組を使って情報を整理するなどの工夫をしています。前回改訂時に導入したボイチャ相談（電話が止まっても端末を Wi-Fi につなげば無料で通話できる機能*）も引き続き利用できます。



※システム提供：NPO 法人トイミッケ

★ガイドを通じて支援につながった例

第 17 期は、ホームレス状態の人を見かけたボランティアがガイドを渡して声をかけたことをきっかけに、医療や法律相談に対応する他団体の支援につながった事例が複数ありました。また、刑務所収監中にガイドを請求し、出所後基金に相談に来た人や、行政機関からガイドを紹介されて就労支援につながった事例もありました。

2. 相談機会の提供

■ 大阪で 232 件、東京で 770 件の相談に対応。気候危機、物価高騰の影響顕著

新型コロナの流行以降、基金への相談件数は毎期 1,000 件を超えており、第 17 期は 1,002 件に上りました。相談者の年齢は 20 ～ 83 歳と幅広く、女性からの相談も 72 件ありました。気候危機や物価高騰など社会全体の不安定さの影響が表れ、東京では生活相談が昨年度比 1.3 倍に増加。SNS での拡散などを通じて『路上脱出・生活 SOS ガイド』Web 版を見た人からの問い合わせが増え、東京で対応した相談の約 4 割が一般（雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売者・元販売者以外）の相談者でした。また、短期のシェルター利用は大阪と東京で昨年度比 2.1 倍となり、ホームレス状態の人に限らず「食料がない」という相談も急増しました。

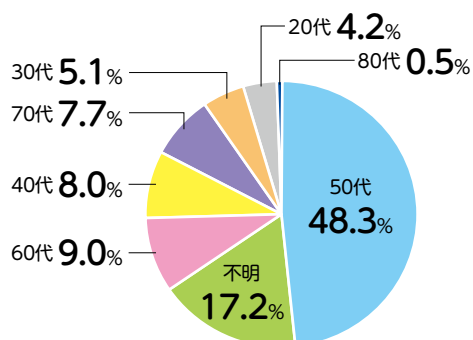
相談件数

のべ **1,002** 件

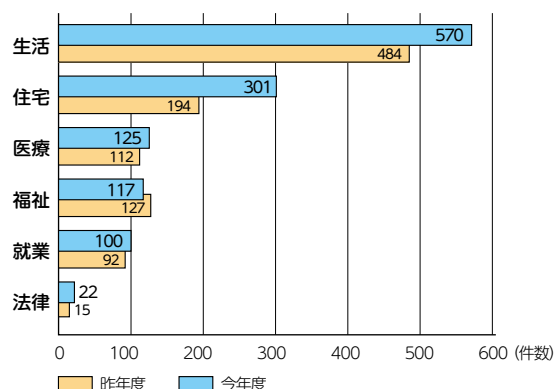
借り上げシェルターの
利用者

のべ **230** 人

相談者の年齢分布



相談内容（複数回答）



■ 外国籍の人からの相談が増加

前 16 期に実施した、ホームレス化予防のための家賃補助事業「おうちプロジェクト2」で、利用者の約 75% が外国籍の人だったことを受け、第 17 期ではその実態を明らかにするために複数の民間支援団体と協働して「仮放免者居住実態調査」を行いました（調査の詳細については 11p. 参照）。

基金にも外国籍の人からの相談が増え、他団体と連携をとりながら、仕事や住まい確保の応援、食料支援などを行いました。

外国籍の人からの相談

のべ **28** 人

路上生活を経験した仮放免者

5 人に **1** 人

■ 路上で働く人々の高齢化……新たな課題

第 17 期、65 歳以上の人からの相談は 136 件でした。路上で雑誌販売などの仕事をする当事者の高齢化に伴い、医療・介護・福祉・住環境などさまざまな面で支援のニーズが高まっています。高齢者福祉制度の利用や、リタイア後のつながりづくりなど、新たな課題も出てきています。

3. 「つながり」をつくる活動

ホームレス状態の人や経験者、ボランティアが集まる月例の「定例サロン」では、書初めや当事者による料理のふるまい、仕事や暮らしについての話し合いなどを行い、のべ364人が参加しました。毎年12月の恒例行事「大阪ホームレスクリスマスパーティ」は、3年ぶりに対面開催し、当事者や市民100人以上が集まって音楽ライブやワークショップを楽しみました。コロナ禍で止まっていた「つながり」の場が再び動き出した一年となりました。

また、寄付で譲り受けた青梅をシロップ漬けにしてつくった「梅ジュース」をサロンでふるまったり、当事者の有志が「手づくり朝ごはん会」で腕をふるうなど、「食」を通したつながりも広がりました。



定例サロン「春服コーディネート会」(東京)



「第14回大阪ホームレスクリスマスパーティ」(大阪)

4. 仕事・就業応援プログラム

ホームレス状態の人や生活に困窮する人がすぐに始められる、雑誌『ビッグイシュー日本版』販売の仕事や有限会社ビッグイシュー日本と連携して応援しました。食品、衣料品などの随時配布のほか、健康管理のための血圧計設置、結核検診の周知、夏場には熱中症対策グッズやスポーツドリンクも提供しました。

大阪では、仕事に関する悩みなどを傾聴し、問題整理のサポートをしてくれるコーチングのプロボノによるセッションを7回開催し、のべ8人が参加。東京では、プロボノの美容師の協力のもと、身だしなみを整えるヘアカットプログラムを4回開催し、のべ11人が参加しました。



熱中症対策グッズ



ヘアカットプログラム

5. スポーツ・文化活動プログラム

ホームレス状態の人が生きるよろこびを見つけ、仲間とともに活動できる当事者主体のスポーツ・文化活動を、広報や活動場所の確保などで応援しました。コロナ禍で休止していた活動も、参加メンバーが話し合いながら安全な方法を考え、段階的に再開しました。

■ 13年ぶりホームレスW杯への代表派遣を応援

ホームレスサッカーチーム「野武士ジャパン」の活動を NPO 法人ダイバーシティサッカー協会と連携し応援しました。大阪・東京の定例練習会には、のべ 407 人が参加（全 23 回）。また、「ダイバーシティリーグ」など他団体が主催する交流戦にも参加しました。さらに 2024 年 9 月開催の「ホームレスワールドカップ 2024*」韓国・ソウル大会に向けて、2 人の代表選手の派遣を調整し、日本代表チームのファンドレイズやチームづくりを応援しました。



ホームレスワールドカップ代表練習の様子

※毎年各国で開催される、ホームレス状態の人が一生に一度だけ参加できるミニサッカーの大会

■ 東西で活発な文化活動

大阪では、講談師の四代目 玉田玉秀斎さん、玉田玉山さんから指導を受ける「ビッグイシュー講談部」が活動 6 年目に突入。玉田玉秀斎さんが路上生活経験者の人生を語る「ビッグイシュー講談」や、講談部員が自らの人生を語る「当事者講談」などを披露する「ビッグイシュー講談会」は 2023 年 12 月に 50 回目を迎えました。50 回を記念して玉田玉秀斎さんから部員に浴衣がプレゼントされました。



いただいた浴衣を着て講談に励む部員

東京では、ダンサー・振付師のアオキ裕キさんと路上生活経験者によるダンスグループ「新人Hソケリッサ!」が精力的に活動を続けています。横浜市寿町で定例のワークショップを開催するほか、ドキュメンタリー映画『ダンシングホームレス』上映会 & パフォーマンス公演、学園祭やイベントへの出演（浅草花やしき・山谷りんりんふえすなど）に加え、2023 年 12 月には寺尾紗穂 & ソケリッサコンサート（長野）も行いました。さらに、メンバーの西篤近さんは初のソロ公演を開催しました。

■ 第 17 期の主な活動

歩こう会、ホームレスサッカー（野武士ジャパン）、ビッグイシュー講談部、新人Hソケリッサ!、ボウリング同好会、家庭菜園部、料理部、パソコンクラブ、茶道部、鉄道部

生きやすい社会をととのえる

—— 貧困問題解決のネットワークづくりと政策提案・実験的事業

基金では、現場の活動で見えてきた社会課題を考えるために、実験的事業や調査・提案の活動に取り組み、これまで19冊の報告書を作成してきました。

第17期は支援団体と協働して仮放免者の居住実態調査に取り組みました。また、市営住宅の空き室を活用した一時居所「あまやどりハウス」での難民の受け入れ、東京でのステップハウス新設など、これまでの活動を広げました。さらに今期は、新しい仕事づくりの実験的事業として有限会社ビッグイシュー日本より「夜のパン屋さん」事業を継承し、進めました。

1. 暮らしの基盤をつくる —— 住宅問題の実験的事業

■ 民間空き室を活用した実験的事業 —— シェルター・ステップハウス事業

増え続ける「空き家」と住宅困窮者のマッチングを模索する住宅問題の実験的事業では、大阪・東京で協力的な家主の方からアパートの空き室提供を受けて「ステップハウス」3室、シェルター4室を運用しました。ステップハウスは利用料の一部が利用者の積立金になり、利用中に基金のサポートを利用しながら次のステップへの準備をすることができます。

東京では、3年ぶりとなるステップハウス「だんだんハウス」1室を2024年8月に新設。さっそく1人が利用を開始しています。大阪では継続してステップハウス「悟楽堂」2室を運用し、3人が利用しました。



だんだんハウス入居時の様子

■ 一時居所「あまやどりハウス」で難民の利用者を受け入れ —— 市営住宅の空き室を活用

兵庫県尼崎市・生活協同組合コープこうべ・阪神間の民間団体と協働した尼崎市営住宅の空き室活用事業「あまがさき住環境支援事業」に継続参加し、8室を借り上げ、一時居所「あまやどりハウス」として運用しました。あまやどりハウスでは、安価な利用料で次のステップへの準備をしつつ、自治会活動にも参加し、地域とのつながりの中で生活します。第17期は15人が利用し、うち6人は自国の紛争から日本に逃れてきた難民の人たちでした。日本で暮らす難民の人を支援する大阪のNPO法人RAFIQと協働して、あまやどりハウスを基盤にした生活再建をサポートしました。



難民の利用者による郷土料理



自治会の餅つきに参加する利用者

■ 支援団体共同で「仮放免者の居住実態調査」を実施

基金では前 16 期、公的支援を受けづらい状況にある人のホームレス化予防を目的に 1 世帯 10 万円の家賃補助をする「おうちプロジェクト 2」を実施しました。この事業は 14 の協働団体を窓口に 111 世帯 / 計 1,152 万円の利用がありました。利用者の約 75%は外国籍の人で、うち半数以上が出入国在留管理庁（入管）の収容施設から仮放免中の人でした。

第 17 期は 2023 年 8 月～12 月の期間で、NPO 法人北関東医療相談会、一般社団法人つくろい東京ファンド、基金の 3 団体共同で、仮放免の人に住まいの状況を聞く郵送アンケート調査を行い、その結果を報告書『仮放免者住居調査報告ー追いつめられる ホームレス化する仮放免者ー』にまとめました。調査には 146 件の回答があり、8 割超が難民認定申請中の人、3 割は未成年の子どもがいる世帯でした。7 割近くの人に家賃滞納の経験があり、5 人に 1 人が路上生活を経験。9 割の人が「家賃が苦しい」と回答しています。家賃の支払い方法は「親戚親族・友人からもらう」「借金」「支援者・支援団体からもらう」の順で多く、就労を禁じられ自活が困難な仮放免者の実態が浮き彫りになりました。



アンケート用紙はやさしい日本語版のほか英語、フランス語、トルコ語版を作成



※ 調査報告書の PDF 版は上の QR コードよりご覧ください。

■ 仮放免者の住宅支援拡充を求め、国土交通省と東京都へ要望書を提出

上記調査の結果を受け、2023 年 12 月 19 日、北関東医療相談会、つくろい東京ファンド、基金の 3 団体は 34 の賛同団体とともに国土交通省、東京都に対して、仮放免者の住まいの支援拡充を求める要望書を提出しました。要望項目は下記の 4 点です。

1. 在留資格の有無や条件に拘わらず、外国人が確実に居住支援法人につながるよう周知徹底すること
2. 公営住宅の入居者募集に際し、在留資格の有無や在留期間等の条件によって応募の受付と抽選から除外されないよう、措置を講じること
3. 建て替え計画等により空室がある公営住宅の空室が活用されるよう、支援団体の利用を認める措置を講じること
4. 非正規滞在外国人を含む外国人に対しウクライナ避難民並みの居住支援をすること



要望書提出の様子



※ 要望書の詳細は上の QR コード（基金 HP）よりご覧ください。

2. 新しい仕事づくりの実験的事業——「夜のパン屋さん」事業を継承

基金では、これまでの「若者ホームレス」に関する調査・提案の活動を通じて、社会的な不利・困難を抱える若者のホームレス化予防には、彼・彼女らが無理なく働くことのできる「仕事」の場が必要だと考えてきました。

そこで、2024年1月に新しい仕事づくりの実験的事業として、フードロスの削減と仕事の場づくりを目指すプロジェクト「夜のパン屋さん」を、有限会社ビッグイシュー日本から継承しました。2024年1月～8月の間で、全国各地28のパン店の協力を得て31,980個の売れ残りそうなパンを預かり、都内3店舗（神楽坂・田町・大手町）で30,195個を販売しました。

パンのピックアップやラベリング、店頭での販売などの仕事は、路上生活経験のある人、ひきこもり経験のある人など多様なメンバーが担い、8カ月間でのべ15人が働きました。店頭で売り切れなかった1,785個のパンは、基金や連携する困窮者支援団体などを通じて必要な人へ無償で提供しました。



お店の軒先をお借りして営業

※各店の売り場や販売時間などは右のQRコード（夜のパン屋さん HP）よりご覧ください。



■多様な人が混ざってつながる——「夜パンカフェ」の開催

日々のパン販売の仕事と並行して、多様な人が出会い、つながれる場づくりを目指し、2024年4月、5月、6月と3回、けやきの森の季楽堂（東京都練馬区）で自主イベント「夜パンカフェ」を開催しました。料理研究家でもある基金共同代表の枝元なほみオリジナルランチを提供する「エダモンカフェ」や、ミャンマーコーヒー、東京野菜、お米、柑橘類、パンの出張販売などのマルシェとともに、本の無料交換所やお福分け券（誰かのためにランチ代を先払いする仕組み）、保育スペースなども多くの利用がありました。また、月替わりの特別企画を設け、5月は路上生活経験者が指南する「段ボールハウスづくりワークショップ」を開催。6月には「難民・仮放免者の住まいと暮らし」をテーマに、つくろい東京ファンドの協力を得て難民・仮放免の当事者の方をゲストに招いたトークセッションも開きました。この日は東アフリカのお惣菜、手づくりの髪飾り、スリランカミルクティーなどのブースが並び、民族衣装に身を包んだ外国人の方も参加して会場が華やきました。



自然豊かな会場で夜パンカフェを開催



段ボールハウスづくりはこどもたちに大人気

市民が社会をつくる

——ボランティア活動と市民参加

1. ボランティア参加

ホームレス問題や貧困問題、具体的なボランティア活動について知ってもらうため、「ボランティア説明会」を毎月1回オンラインで開き、78人が参加しました。第17期は新たに49人がボランティアに登録し、登録者数は累計で1,464人となりました。部活動や夜回り、健康相談、コーチング、ヘアカットなどそれぞれの得意分野を活かして多くのボランティアが活動に参加しました。

※「ボランティア説明会」への参加をご希望の方は、右のQRコード
(基金HP「イベント情報」)より日程をご確認の上お申込みください。



■ 夜回りボランティア再開

コロナ禍以前に実施していた「夜回りボランティア」を再開しました。第17期は57人のボランティアが参加し、路上や公共施設などで過ごす人に『路上脱出・生活SOSガイド』や寝袋、寄付品の食料、テレホンカードなどを手渡しました。

参加したボランティアからは「多くの通行人がいる中で、声かけが必要な人かどうか、見極めが難しい」「路上だけでなく、いろいろなところで生活している人を知った」といったコメントがありました。



夜回りボランティア活動の様子

2. 広報・メディア掲載

■ 広報

会員向けの基金だよりや基金通信「希望前線」(雑誌『ビッグイシュー日本版』掲載)を各24回発行しました。また、基金HPでの広報や、Facebook、X、InstagramなどSNSでの発信、「Google 広告」なども活用しました。メディアでも、仮放免者の居住実態調査や夜のパン屋さんなどの活動が多数取り上げられました。

たくさんの方に、SNSなどを通じて、基金の各種事業の周知・広報にご協力いただきました。特に年末年始の支援情報や『路上脱出・生活SOSガイド』はたくさんの拡散協力をいただきました。困っている人に情報を届ける活動へのご参加、ありがとうございました。

■ メディア掲載

(新聞、テレビ、雑誌、機関紙、Webメディア、ラジオなど)

通販生活／大阪保険医新聞／ハフポスト日本版／東京新聞／ポリタスTV／J-WAVE／産経新聞／フジテレビ／ほ・とせなNEWS／ヨミドクター／ELLEグルメ／One News／with news／B-plus

◇上記メディアに取り上げられた内容

新人Hソケリッサ!、国交省と東京都への要望書提出、夜のパン屋さんなど

※記事の詳細は、右のQRコード
(基金HP「メディア掲載情報」)よりご覧ください。



3. 寄付参加プログラム——市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付、物品寄付

市民応援会員と寄付参加者はのべ 6,165 人、合計金額は 6,490 万円となりました。市民応援会員や寄付といった、目的や用途を限定される補助金などとは違う、縛られない資金に支えられて、コロナ禍などの社会不安の状況においても活動を継続し、新たな事業にも挑戦できました。寄付参加をいただいた皆様に、あらためて心からの感謝とお礼を申し上げます。2024 年1月には、寄付金控除の申告に必要な 2023 年度分の領収書を 1,368 人にお送りし、所得税からの寄付者への返金額合計は約 1,901 万円となりました。

■ 会員・寄付者の内訳

• 市民応援会員

にっこり (370 人) /ひとり立ち (85 人) 計 455 人 (会費金額 980 万円) /
企業・団体サポーター計 3 件 (会費金額 175 万円)
会費金額計 1,155 万円

• メニュー寄付

出会い (602 人) /つながりウォーク (489 人) /
実践応援ラン (131 人) /社会包摂マラソン (88 人) /
市民信頼社会 (61 人)
計 1,371 人 (寄付金額計 2,102 万円)

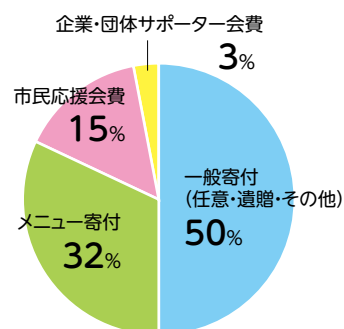
• 任意寄付

任意寄付は 4,128 人、遺贈・大口寄付は 3 人、
その他寄付 (チャリボンなど) は 205 人、
のべ 4,336 人 (寄付金額計 3,233 万円)

• マンスリー寄付

マンスリー寄付参加者は 2024 年 8 月時点で 356 人 (寄付金額計 91 万円)

会費・寄付収入の内訳



■ 物品寄付

基金 HP や SNS を活用して寄付募集をしました。Amazon ほしい物リストを通じて、食料品や熱中症対策グッズなどの支援物資の寄付も呼びかけました。継続的に応援いただいている企業や連携団体、たくさんの市民の方から、食料品や衣料品、生活用品などを寄贈いただき、今期は 401 件 (大阪 120 件、東京 281 件) の物品寄付が届きました。寄付物品は、夜回りなどで出会う人や、事務所を訪れる相談者に手渡しました。

■ 古本や DVD などで「ホームレスの自立を支援」ーチャリボン

書籍などを株式会社バリューブックスに送ることで、買い取り相当額分を NPO に寄付できる仕組みの「チャリボン」を通じて、2013 年 4 月から 2024 年 8 月末までの間に 4,962 人から 1,095 万 5,536 円分のご寄付がありました。お申し込みなどの詳細は、チャリボン HP (<https://www.charibon.jp/>) をご覧ください。

4. ありがとうございました——市民・組織・団体・企業のご協力とご参加

【助成金】

公益財団法人パブリックリソース財団／東京アンブレラ基金（一般社団法人つくろい東京ファンド）／
一般財団法人浪速友愛会

【企業・団体寄付】

株式会社イー・エヌ・アイ／日本ライフレイ株式会社／NPO 法人生活支援機構 ALL／八王子市つるた
勝巳税理士事務所／シアターキノ／仏教を初歩英語で学び実践するサンガの会／ES Global Japan
株式会社

【寄付サイトからの寄付】

公益財団法人パブリックリソース財団（ギブワン、<https://giveone.net/>）
株式会社バリューブックス（チャリボン、<https://www.charibon.jp/>）

【物資の寄付】

UBS 証券株式会社（食品、衣類、日用品など）／認定 NPO 法人
フードバンク関西（食品）／生活協同組合コープこうべ大阪北
地区本部（食品）／宗教法人真如苑（食品）／株式会社ピクニック
（衣類）／特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会（食品）／
こども防災協会 鹿島美織（食品）／損害保険ジャパン株式会社
京滋自動車営業部（食品）／千代田工販株式会社（衛生用品）／
一八亭（食品）／大阪府済生会中津病院（衣類）／飛鳥・橿原
ユネスコ協会（テレホンカード）／学校法人草苑学園（食品）



企業からいただいた物品寄付

【各地のサポーター組織】

ビッグイシューさっぽろ／仙台ビッグイシューソサイエティ／NPO 法人仙台夜まわりグループ／
NPO 法人萌友（仙台）／木曜パトロールの会（横浜）／ビッグイシュー販売立川グループ／真宗大谷派
聞善寺（金沢市）／ビッグイシュー名古屋ネット／NPO 法人釜ヶ崎支援機構／NPO 法人岡山きずな
／ビッグイシュー福岡サポーターズ／ビッグイシューくまもとチーム／ビッグイシューかごしま
サポーターズ

【その他】

グーグル合同会社／株式会社セールスフォース・ジャパン

決算報告

第17期の市民応援会費、寄付、助成金、事業収益などの経常収益は7,461万円となりました。今期の正味財産増減額は520万円となり、前16期の繰越金1億4,944万円をあわせ、1億5,465万円の繰越剰余金を計上しました。会員・寄付者の皆様に引き続き応援いただいたことに加えて、今期からは「夜のパン屋さん」の事業収益も新たに加算されています。さまざまなチャンネルから基金の活動にご参加いただき、本当にありがとうございます。次年度への繰越金は「夜のパン屋さん」事業の展開、東京での空き室を活用した一時居所の新設、困窮する若年層への家賃補助事業、大阪の事務所移転を兼ねた市民交流サロン創設の実現などに活用します。

【活動計算書 2023年9月1日から2024年8月31日まで】

科 目		金額 (単位：円)	
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	130,000		
賛助会員受取会費	11,550,000	11,680,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	53,354,080	53,354,080	
3. 受取助成金等			
受取助成金	1,398,950	1,398,950	
4. 事業収益			
パン事業収益	6,709,532		
生活自立応援事業収益等	699,400	7,408,932	
5. その他収益			
受取利息	9,016		
雑収益	758,678	767,694	
経常収益 計		74,609,656	
II 経常費用			
1. 事業費			
人件費			
給料手当	18,232,616		
臨時雇賃金	7,429,547		
法定福利費	2,558,926		
通勤費	1,543,952	29,765,041	
その他経費			
売上原価	3,937,453		
業務委託費	2,831,003		
諸謝金	640,440		
印刷製本費	555,261		
会議費	751,059		
旅費交通費	2,780,337		
通信運搬費	2,622,232		
消耗品費	2,544,848		
家賃 (光熱費含)	3,445,542		
賃借料	4,371,051		
減価償却費	241,666		
保険料	637,680		
諸会費	63,000		
租税公課	600		
研修費	73,334		
広報費	3,110,400		
会報費	3,840,120		
寄付金	175,000		
支払手数料	1,362,906		
雑費	702,384	34,686,316	
事業費 計		64,451,357	
2. 管理費			
人件費			
役員報酬	1,800,000		
給料手当	715,200		
臨時雇賃金	0		
法定福利費	106,789		
通勤費	43,560		
福利厚生費	53,823	2,719,372	
その他経費			
印刷製本費	27,906		
会議費	429		
旅費交通費	1,152		
通信運搬費	607,824		
消耗品費	105,569		
家賃 (光熱費含)	181,344		
賃借料	101,420		
諸会費	39,600		
租税公課	1,000		
研修費	0		
支払手数料	1,027,906		
支払利息	0	2,094,150	
管理費 計		4,813,522	
経常費用 計		69,264,879	
当期経常増減額		5,344,777	
III 経常外収益			
経常外収益 計		0	
IV 経常外費用			
経常外費用 計		0	
非収益事業繰入支出		0	
収益事業繰入収入		0	
税引前当期正味財産増減額		5,344,777	
法人税、住民税及び事業税		140,000	
当期正味財産増減額		5,204,777	
前期正味財産額		149,443,373	
次期正味財産額		154,648,150	

【貸借対照表 2024年8月31日現在】

科 目		金額 (単位：円)	
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	155,314,412		
未収金	420,000		
仮払金	210,000	155,944,412	
2. 固定資産			
車両運搬具	918,334		
敷金	198,500	1,116,834	
資産合計			157,061,246
II 負債の部			
1. 流動負債			
仮受金	885,938		
未払金	238,030		
預り金	107,028		
当事者預り金	1,182,100	2,413,096	
2. 固定負債			
		0	
負債合計			2,413,096
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		149,443,373	
当期正味財産増減額		5,204,777	
正味財産合計			154,648,150
負債及び正味財産合計			157,061,246

【財産目録 2024年8月31日現在】

科目・摘要		金額 (単位：円)	
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手元現金	1,676,959		
普通預金 (三菱UFJ銀行堂島支店)	111,049,395		
普通預金 (三菱UFJ銀行新宿支店)	800,000		
郵便振替	29,283,368		
普通預金 (ゆうちょ銀行)	3,527,722		
普通預金 (三井住友銀行)	3,044,364		
普通預金 (みずほ銀行)	522,028		
普通預金 (楽天銀行)	5,410,576		
未収金			
賛助会員受取会費未収金 (カード利用)	420,000		
仮払金	210,000	155,944,412	
2. 固定資産			
車両運搬具	918,334		
敷金 (東京シェルター)	198,500	1,116,834	
資産合計			157,061,246
II 負債の部			
1. 流動負債			
仮受金 (南ビッグイシュー日本)	885,938		
未払金 (謝金他)	238,030		
預り金 (源泉所得税、外注所得税)	107,028		
当事者預り金 (生活自立積立金)	1,182,100	2,413,096	
2. 固定負債			
		0	
負債合計			2,413,096
正味財産			154,648,150

【計算書類の注記】

1、重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準によっています。

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。なお、当法人は消費税免税事業者です。

(2) 事業費管理費共通経費の按分

共通経費は業務の従事割合によって按分しています。

2、事業費の内訳

事業費内訳	生活自立応援事業			ホームレス問題等社会問題解決のための政策提案事業			活動への当事者や市民の参加応援事業	事業費計
	生活自立応援	就業応援	スポーツ・文化活動応援	若者応援と新しい仕事づくり	夜のパン屋さん	住宅政策提案	キャンブル依存症問題	
人件費								
給料手当	13,487,359	388,560	1,134,216	850,803	0	800,259	738,339	18,232,616
臨時雇賃金	2,366,423	0	0	0	4,107,892	227,622	0	7,429,547
法定福利費	1,866,983	57,505	161,667	128,117	0	115,169	106,948	2,558,926
通勤費	1,098,065	23,285	85,105	57,624	73,260	50,746	47,736	1,543,952
人件費計	18,818,830	469,350	1,380,988	1,036,544	4,181,152	1,193,796	893,023	29,765,041
その他経費								
売上原価	0	0	0	0	3,937,453	0	0	3,937,453
業務委託費	880,000	0	0	0	1,951,003	0	0	2,831,003
諸謝金	263,080	0	0	0	102,360	0	0	640,440
印刷製本費	401,700	0	0	0	32,041	1,040	0	555,261
会議費	597,315	12,466	98,458	3,850	0	38,970	0	751,059
旅費交通費	773,740	20,700	314,582	327,348	830,510	509,673	1,884	2,780,337
通信運搬費	211,489	0	0	250	53,897	92,398	0	2,622,232
消耗品費	1,301,423	0	7,168	26,606	455,793	403,751	0	2,544,848
家賃（光熱費含）	2,139,863	72,538	181,345	290,151	0	181,344	145,075	3,445,542
賃借料	2,650,676	8,910	230,585	57,110	729,100	694,670	0	4,371,051
減価償却費	0	0	0	0	241,666	0	0	241,666
保険料	31,200	0	0	0	429,272	0	0	637,680
諸会費	53,000	0	0	0	0	0	0	63,000
租税公課	0	0	0	600	0	0	0	600
研修費	19,998	0	0	0	24,000	10,636	0	73,334
広報費	0	0	0	0	0	0	0	3,110,400
会報費	0	0	0	0	0	0	0	3,840,120
寄付金	175,000	0	0	0	0	0	0	175,000
支払手数料	341,031	0	880	2,026	74,310	128,548	0	1,362,906
雑費	647,496	20,000	6,500	10,000	10,800	7,588	0	702,384
その他経費計	10,487,011	134,614	839,518	717,941	8,872,205	2,068,618	146,959	34,686,316
事業費計	29,305,841	603,964	2,220,506	1,754,485	13,053,357	3,262,414	1,039,982	64,451,357

3、当事者預り金の内訳

内容	期首残高	当期増減	期末残高
生活自立積立金	1,021,600	160,500	1,182,100
合計	1,021,600	160,500	1,182,100

4、役員及びその近親者との取引

科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引
家賃（光熱費含）	3,626,886	3,626,886
広報費	3,110,400	3,110,400
会報費	3,840,120	3,840,120

監査報告
1 監査の方法の概要 業務執行については、代表理事等から、現在会員数、活動内容等を聴取し、財産の状況については、損益計算書、貸借対照表の開示及び説明を受けました。他方、適宜、総勘定元帳、入金伝票、領収書、通帳の等し、郵便振替票等につき検閲を加えました。
2 監査の結果 特定非営利活動法人ビッグイシュー基金の業務報告及び決算報告について、2023（令和5）年9月1日から2024（令和6）年8月31日までの監査を行った結果、客観的資料にもとづき明確かつ正確であって、適法であることを認めます。 なお、業務または財産に関して、指摘すべき、不正の行為または法令、定款違反の重大事実は認められません。
2024（令和6）年11月7日
特定非営利活動法人ビッグイシュー基金監事 本 原 万 樹 子

社会を変えるのはあなたの寄付です——会員・寄付の制度について

ビッグイシュー基金は認定NPO法人です。ご寄付をいただくと、納められた所得税から寄付額の4割弱が返金されます（返金の上限額は納付所得税の25%まで）。これは、公のことはすべて国が税で賄うという建前を変え、公を認定NPO法人にも担ってもらい、その分、税の一部を返金する、という仕組みです。公共の仕事を「税＝国家」でするのか？「寄付＝NPO」でするのか？を選んで決めるのは、納税し寄付するあなたです。市民の寄付で社会を変える活動に、あなたも参加しませんか。

メニュー寄付

税制優遇の対象。「(寄付金合計額 - 2千円) × 40%」が税額から控除できます（確定申告が必要）。



出会い寄付
5,000 円 / 1 口（返金額は 1,200 円）



社会包摂マラソン寄付
50,000 円 / 1 口（返金額は 19,200 円）



つながりウォーク寄付
10,000 円 / 1 口（返金額は 3,200 円）



市民信頼社会寄付
100,000 円 / 1 口（返金額は 39,200 円）



実践応援ラン寄付
20,000 円 / 1 口（返金額は 7,200 円）

- 任意額寄付 事務手続き上 1,000 円からの受付となります。
- マンスリー寄付 月額 1,000 円 × 1 口～。（HP から受け付けています）
- 法人寄付 損金算入限度額の枠が拡大されます。

* 雑誌送付などの特典はありません。毎月発行のニュースレター、年次報告書（年 1 回）をお送りします。

遺贈・相続財産の寄付

寄付された相続財産には相続税がかかりません。

税制優遇を受けられる認定NPOになって 12 年の間に、26 人の方から相続税が免除される遺贈・遺産寄付をお預かりし、活用させていただいています（2024 年 8 月末現在）。

* 遺贈、相続財産の寄付をお考えの際には、お気軽に電話（06-6345-1517）・E メール（info@bigissue.or.jp）までご連絡ください。当団体の顧問弁護士へのご相談（無料）も可能です。

市民応援会員

特典があります（税制優遇はありません）。



にっこり応援会員
年会費：15,000 円（誌代相当分を含む）
【特典】『ビッグイシュー日本版』を 1 年分 24 回
毎号送付＆雑誌の「基金通信」最新号にお名前を
掲載、年次報告書の送付（年 1 回）ほか



ひとり立ち応援会員
年会費：50,000 円（誌代相当分を含む）
【特典】『ビッグイシュー日本版』を 1 年分 24 回
毎号送付＆雑誌の「基金通信」に 1 年間お名前を
掲載、年次報告書の送付（年 1 回）、パーティに
ペアでご招待（年 1 回）ほか

企業・団体「社会再生サポーター」

特典があります（税制優遇はありません）。

● キャリア再形成・サポーター会員 年会費：250,000 円 ● 社会復帰・サポーター会員 年会費：500,000 円 ● 社会再生・サポーター会員 年会費：1,000,000 円

* 『ビッグイシュー日本版』1 冊を 1 年分 24 回送付、雑誌に 1 年間お名前掲載などの特典があります（年会費に誌代相当分を含みます）。

＜郵便振替での振込み＞ 口座番号 00960-6-141876 口座名義 NPO 法人ビッグイシュー基金
お振込みの際は寄付・会員の別、連絡先（お名前、郵便番号、ご住所、電話番号）を明記ください。

＜銀行振込み・クレジットカード＞

ビッグイシュー基金のホームページ（<https://bigissue.or.jp/>）からご利用いただけます。

※ 個人の方のご寄付の領収書は 1 月～ 12 月入金分をまとめて翌年 1 月下旬頃に発行・送付させていただきます（これを確定申告時に提出していただくと、納付税額から寄付額の 4 割弱が返金されます）。

誰もが生きやすい包摂社会をつくる——ビッグイシュー基金とは

ビッグイシュー基金は、有限会社ビッグイシュー日本（※）を母体に 2007 年 9 月に設立した、ホームレス状態にある人々の自立を応援する非営利団体です。ビッグイシュー基金は、①ホームレス状態の人、生活困窮者の自活・自立応援、②貧困問題解決のネットワークづくりと政策提案、③市民のボランティアや寄付参加、の 3 つを活動の柱に据え、貧困と社会的排除の極北にあるホームレス問題を軸に、貧困問題の解決に取り組みます。それらを通して市民、ホームレス状態の人、困窮した人とともに誰もが生きやすい包摂社会の形成をめざします。

団体概要

- 名 称 認定 NPO 法人 ビッグイシュー基金
- 設 立 2007 年 9 月設立、08 年 4 月 NPO 法人の認証、12 年 7 月国税庁、17 年 3 月大阪府認定 NPO 法人格取得、22 年 3 月認定更新
- 所 在 地 [大阪事務所] 〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島 2 丁目 3-2 堂北ビル 4 階
TEL : 06-6345-1517 FAX : 06-6457-1358
[東京事務所] 〒162-0811 東京都新宿区水道町 4-28 JC 江戸川橋ビル 2 階
TEL : 03-6380-5088 FAX : 03-6802-6074
E-mail : info@bigissue.or.jp URL : <https://bigissue.or.jp/>
- 役 員 共同代表 米本 昌平（東京大学客員教授）
稲葉 剛（立教大学大学院客員教授／一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事）
枝元 なほみ（料理研究家）
理 事 高野 太一（ビッグイシュー基金事務局長）
蛭間 芳樹（野武士ジャパンコーチ／世界経済フォーラム ヤング・グローバル・リーダー 2015）
水越 洋子（『ビッグイシュー日本版』編集長）
監 事 木原 万樹子（木原法律事務所弁護士）
相談役 雨宮 処凛（作家）
- スタッフ 高野 太一 栗原 奈津子 野村 拓馬 佐野 ハナ 西郷 和将
三井 泰平 中村 優太 小野 阿津美 宮崎 泰代 伊藤 美帆

（※）有限会社ビッグイシュー日本とは？

ビッグイシュー日本は、「ホームレスの人々の救済ではなく仕事を提供し、自立を応援する」ことを目的に活動する社会的企業です。質の高い雑誌をつくり、ホームレス状態や貧困状態にある人の独占販売事業とし、その売上の 50% 以上を収入にしようという仕組みをもっています。2003 年 9 月の設立から 2024 年 3 月までに 2,070 人が販売者に登録し、207 人が仕事を心得て自立しました。また累計 996 万冊の雑誌を販売し、16 億 1,883 万円の収入をホームレスの人たちに提供してきました。同誌は 2024 年 5 月に累計販売冊数 1,000 万冊を突破しました。

ビッグイシュー基金の最新の活動は、公式 HP よりご覧いただけます。

NPO 法人ビッグイシュー基金
公式 HP : <https://bigissue.or.jp/>



【表紙写真】

- 1：一時居所「あまやどりハウス」餅つき（大阪）
- 2：健康相談会の様子（東京）
- 3：事務所での生活相談（東京）
- 4：「夜のパン屋さん」神楽坂店（東京）
- 5：一時居所「あまやどりハウス」を利用する難民の方による郷土料理（大阪）
- 6：野武士ジャパン MKB カップ連覇（東京）
- 7：「家庭菜園部」で野外散策（東京）



第17期 年次報告書

2024年11月30日発行

認定NPO法人ビッグイシュー基金

（大阪事務所）〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島2丁目3-2 堂北ビル4階

TEL：06-6345-1517 FAX：06-6457-1358

（東京事務所）〒162-0811 東京都新宿区水道町4-28 JC 江戸川橋ビル2階

TEL：03-6380-5088 FAX：03-6802-6074

E-mail：info@bigissue.or.jp

URL：https://bigissue.or.jp/

編集：中村未絵

デザイン：新デ制作室